

2 次の二つの文章を読んで、それぞれの内容に触れながら、「新しい発想をすること」についてあなたの考えを五〇〇字以内で述べなさい。その際、三段落または四段落構成とし、Aの内容を第一段落、Bの内容を第二段落、そしてあなたの考えを第三段落以降に書きなさい。ただし、あなたの考えの説明として具体的な例を示すこと。

A かつてのトーマス・エジソンの研究所には貼り紙があつて、「人間には悪い性格がある。考えないで済む方法がないかと一生懸命に考える」と書いてあつた。研究の途中で、わからないことがあつたり必要なことがあると、解決方法がどこかの書物に書いてあるのではないかと探す。なかなか見つからないと次から次へと本を探し、一日時間をつぶしてしまうことがある。この貼り紙は、そのような研究態度を戒める言葉だつた。

書いてある本を探すのではなくて、まずは自分で考えるのだ。自分で考えれば何か方法を思いつくかもしれない。その方法はどの本にも書かれていない新しい方法かもしれない。そのほうが、^{※1}クリエイティブな作業としてはおもしろいのだ。

学んで知識をためることは大切なことだが、それは常識的なレベルの話で、人がびつくりするような発想、たとえば若き数学者の^{※2}ガロアが思いついた発想などは、学んだ知識だけからは見つけられないのだ。知識をためる方法では、新しいものを発見できない。少なくとも、クリエイティブになれる可能性があるということだ。

「考えることが無駄だ」と考えることが無駄だともいえる。

めんどくさいけど、まずは考えてみよう。ひよつとしたら何か発見するかもしれない。新しい方法があるかもしれないのだ。まずは自分で考えるという態度やくせをつけることが、クリエイティブな作業をするためにはいい。さらにいうと、そのような種類の人間がたくさんいる環境に入つて作業してみるといいのだ。

(広中 平祐『学問の発見 数学者が語る「考えること・学ぶこと」』二〇一八年 講談社)

※1 創造的・独創的であること

※2 フランスの数学者

B

当然視されていること、常識と思われていること、昔から信じ込まれていること、これらをもう一度掘り起こして、考え直してみることが「深く考える」ことの意味です。それは自分が立っている足元を見直してみる態度だといえるでしょう。そうして考え直してみた結果、「もとのままでもよい」という結論が出るときもありますし、「部分的に改善していくほうがよい」という結論が出るときもありますし、「大きく変えたほうがよい」「全面的に新しいものにしたほうがよい」という結論が出るときもあるでしょう。

科学の発見も、芸術の新しい表現も、斬新なイベントも、創造的なことはすべて、当然とされていることを一旦疑ってみる態度から生まれてくるのです。そしてこうした態度は、科学や芸術の分野だけではなく、日常生活にも当てはめてみるべきなのです。

しかしながら、自分の思い込みや古い常識に、自分だけで気がつくことはなかなか難しいものです。自分の周りの人たちも一緒に信じてしまっている思い込みならなおさらです。

それに気がつかせてくれるのが、自分とは異なる他者との対話です。その他者は、できれば自分と違えば違ふほどいいでしょう。[※]ジェンダーにせよ、性格にせよ、家庭や生い立ちにせよ、考え方にせよ、これまでの経歴にせよ、社会の中での立場にせよ、です。

生徒同士で対話する場合は、年齢はほとんど同じで、社会的立場はまさしく学校の生徒です。その意味で、かなり似た部分の多い他者なのですが、それでもあなたの友人は、あなたには話していない意外なことを考え、普段は見せない意外な側面を持っているものです。

(河野 哲也『問う方法・考える方法 「探究型の学習」のために』二〇二一年 筑摩書房)

※ 社会的・文化的な性別の概念